

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHOさいたま北部医療センター

平成28年度 第2回 地域協議会 議事録

- 日 時：平成29年3月8日（水） 19：30～20：30
- 場 所：さいたま北部医療センター 大会議室
- 議 題：1. 新病院建設に係る進捗状況について  
2. 地域医療の現状について
- 出席者：青木龍哉（さいたま市保健福祉局理事） 飯島竜之（大宮医師会副会長）  
百村伸一（自治医科大学附属さいたま医療センター長）、田中孝之（さいたま市北区自治連合会会長）、黒田豊（院長）、小池信行（副院長）、  
中條洋（院長補佐）、五味恵美子（総看護師長）、志村敦（院長補佐）、  
齊藤篤志（事務長補佐）
- 概 要
- 1. 新病院建設に係る進捗状況について
- 1) 住民説明会を終えて（志村院長補佐）  
近隣住民が気にされていたことは、救急車のサイレン音と最寄り駅の加茂宮駅までの道路に横断歩道がないこと。また、近隣マンション住民からは病室から見られるのではないかという不安の声もあったが、相当な距離を取っているので実際に建てた後の見学会等で確認していただき、それでも気になるようならば、カーテン、フィルム等の運用で対応していく予定。
- 2) 要望事項
  - ・ 商業施設からの連絡ブリッジをぜひお願いしたい（田中氏）  
⇒ ブリッジ建設には、クリアにしていかなければならない課題が多いが、既存である橋を延線する形で、病院の2階へ接続する計画で行政と協議中。  
（齊藤事務長補佐）
  - ・ 地域住民が参加できるように講堂や研修室を使用して、公開講座や生活相談ができるようお願いしたい。（田中氏）  
⇒ 現在は公民館をお借りして公開講座を行っているが、新病院では病院内で行いたいと考えている。今の当院での開催は会議室に上がるのに階段が多く、不便といった理由で行なえていないが、新病院では大会議室までのエレベーターを設置するので参加しやすくなるだろう。来年度の公開講座は8回を予定している。

### 3) 将来の展望（黒田院長）

将来的には、許可病床数を増やして200床を超え、紹介・逆紹介率も上げて、地域医療支援病院を目指していきたい。某大学病院の進出に伴い、病床数を増やす場合は、3階の事務フロアを病棟に変える設計になっている。当院は急性期を受けながら、5階病棟を地域包括ケア病棟にしていく予定。

近隣の救急車をたくさん受けている病院も満床が続いているようで、そういった病院の受け皿として退院先を探しながら地域包括ケア病棟を運用しながら地域に根差した医療を提供していきたい。

## 2. 地域医療の現状について

### 1) 透析について

- ・ 4月から着任する腎臓内科医師によって今よりも回転はあがるだろうか。また、患者数が増える見込みなので、紹介する際は対応願いたい。（百村氏）  
⇒ 私と新しい医師の2名体制で新しい透析室を作っていく方向で運用していくので、回転数はあがるだろう。当院の患者でも今年に入って4名シャント形成をし、透析導入となる可能性の患者も多数いる。自治医大腎臓内科の教授から自宅が当院に近い患者を紹介いただける話になっているのでしっかり準備をしていこうと考えている。（黒田院長）

### 2) さいたま市大宮休日夜間急患センターについて

- ・ 執務している耳鼻科の医師から、器材が足りなくて困っているという声があったので対応願いたい（飯島氏）  
⇒ 耳鼻科の常勤医がいないので、管理がうまくできていない可能性がある。新病院では準備をしているが、現状で対応できるところは対応していく。（黒田院長）

### 3) 紹介率・逆紹介率について

- ・ 将来的に地域医療支援病院へ向けての紹介率・逆紹介率は？（青木氏）  
⇒ H28年度の紹介率は13.6%、逆紹介率14.6%。低い理由は、母数にさいたま市大宮休日夜間急患センターの患者が含まれるので中々難しい。当院は入院に比べて外来の比率が高いので、数字全体的に影響してしまう。これからは、入院へシフトチェンジして、紹介患者さんを優先的に診ることができるよう病院全体で意識改革をしていく必要がある。（黒田院長）

以上